

令和2年度 大田区立赤松小学校 自己評価 報告書

令和3年3月10日

○ 本校の概要

・児童数(全402名、12学級)、教員数(校長1名、副校長1名、主幹教諭2名、主任教諭4名、教諭8名、講師2名、非常勤教員1名ほか)
 ・学校支援地域本部「スクールサポートあかまつ」を中心に、地域力を活かした特色ある教育活動(洗足池を中心とした地域学習、異学年の交流を重視した「なかよし班」活動、金管バンドの演奏等)を推進している。
 ・校内研究において長年にわたりESD(持続発展可能な社会のための教育)に取り組み、平成25年にユネスコスクールの認定を受け、平成29年度にはそれまでの成果に対し、ESD大賞が授与された。現在もESDのより一層の充実に努めている。
 ・長年取り組んできた低学年を中心としたモルモットの飼育、委員会活動を中心としたウサギの飼育を現在も引き続き推進している。
 ○令和2年度より校舎改築工事に着手。千束特別出張所、高齢者利用施設等を含む複合施設となる。令和9年3月竣工予定。令和5年度まで洗足池グラウンドを借りて体育の授業を実施する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「なかよし班で他の学年の友だちができた」とアンケートで回答した子どもの割合が80%以上	4:	・2学期から理科指導専門員による授業観察を4・5・6年で6回実施し、科学的思考力が身に付くような授業づくりを心掛けた。 ・5月まで臨時休業となつてできなかったカリキュラムを外国語教育指導員と連携して再編成した。外国語教育指導員がデジタル教科書と電子黒板を効果的に活用して、意欲的に児童とコミュニケーションを図り、活気のある授業を展開することができた。 ・「ディレクトフォース」などのゲストティーチャーを招き、理科の実験を通して、科学の歴史や不思議さ、興味・関心を高める授業を実施することができた。 ・昨年度よりもタブレットの活用頻度が高まった。基礎基本の定着を図るために「学びポケット」を活用して、家庭で学習した箇所を自習して自己採点したり、ポイントを獲得することにより意欲をもつて取り組めるようになってきた。 ・放送朝会での校長講話や区からの通知文などを活用して、全教員が新型コロナウイルスに感染した場合でも、児童に偏見をもたせない指導をすることができた。 ・感染症対策や洗足池グラウンド(2時間続き)の活用を考慮した体育の指導計画を作成して実施した。低学年には、体育補助員を依頼して個別指導や集団行動の動きを高めたり、用具の準備や片付けをしていただいたり、指導時間を十分に確保できた。 ・「なかよし班で他の学年の友だちができた」とアンケートで回答した子どもの割合が70.5%となり、9.9ポイント減少した。2学期から「なかよし班」の活動を開始したが、授業時数確保や感染防止対策のために異学年交流などの活動規模を縮小しなければならず、昨年度より回数を減らさなければならなかった。そのような制限のある中ではあったが、6年生が最上級学年としての自覚をもつて、なかよし班をまとめて、限定された活動場所を楽しめる企画を立てていた。次年度は、感染状況によるが、開催回数を元に戻して、児童の自主的な活動になるように努めた。異学年交流の「なかよし班」も回数を減らしたが、2学期から感染症対策を考慮しながら実施し、6年生が最上級学年としての自覚をもつことができ、一回一回の「なかよし班」を充実した活	A	7	・臨時休業が年度当初にあったわりには、コミュニケーション能力が高まっているのではと思います。 ・活動の大幅縮小はコロナ禍のためやむを得ないが、できなかったことをよく精査し、次の取組に生かしてほしい。 ・コロナによる授業減のロスからの脱却を様々な方法で努力していることがうかがえる。なかよし班活動の激減にもかかわらず70%以上の子どもが友達ができたと答えたのは、それだけ一回一回に集中し、活動を大事にした子どもたちの姿勢の結果だと思う。 ・校舎建替え、コロナの中、思考を止めずに工夫をした取組と謙虚な自己評価に共感できる。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:「なかよし班で他の学年の友だちができた」とアンケートで回答した子どもの割合が70%以上	3:		B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:「なかよし班で他の学年の友だちができた」とアンケートで回答した子どもの割合が60%以上	3		C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:「なかよし班で他の学年の友だちができた」とアンケートで回答した子どもの割合が60%未満	2:		D		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			1:				
		「なかよし班」活動を活用した取り組みを計画的に行い、異学年交流の充実を図る。	4:感染症対策を考慮しつつ前年度並みに実施した。 3:感染症対策を考慮し、前年度より若干縮小した。 2:感染症対策を考慮し、前年度より大幅に縮小した。 1:継続できなかった。	2						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:「学習することが楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が90%以上	4:	・「学習することが楽しい」が89.4%で、昨年度より0.1ポイント上がったが、90%には届かなかった。電子黒板や書画カメラ、タブレットなどのICT機器を効果的に活用したことや、昨年度の未履修に合わせて今年度のカリキュラムを再編して、ポイントを絞った授業を展開したことが考えられる。年度末には、今年度の全学年のカリキュラムを修了する見通しである。 ・学期に1回、2年生以上で算数の基礎基本の定着が図れているかを確認するベーンシクドリルテストを実施して、定着していない単元を分析しながら授業を進めることができた。また、単元ごとに「たしかめテスト」を実施して満点になるまで繰り返し学習を図り、学期ごとにチェックシートを保護者に伝えることができた。 ・算数では、学年を習熟度別に3展開で実施して、基礎基本の定着を図りたいクラスでは、少人数指導に加えて学習補助員や特別支援員などを配置して個別指導を拡充した。 ・大田区学習効果測定の結果を分析して、昨年度の定着状況から授業改善推進プランを作成、実践している。 ・ESDの充実を図るために、研究授業を4回、ESDの教育を深める講演会を1回実施することができた。研究を深めた生活科・社会科から全教科に児童のESDの意識が広がるように、全教室にESDのポイントを掲示して授業に取り組んだ。	A	7	・一斉授業をせざるを得ない状況で、よく努力されていると思います。 ・懸命な取り組みを評価します。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:「学習することが楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が80%以上	3:		B	2	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	2:「学習することが楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が70%以上	2:		C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:「学習することが楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が70%未満	1:		D		
		ESDの充実を図り、問題解決学習を重視した学習指導を行う。	4:感染症対策に配慮しつつ全教科で実施した。 3:感染症対策に配慮しつつの80%以上の教科で実施した。 2:感染症対策に配慮しつつ60%以上の教科で実施した。 1:実施教科が60%未満であった。	3						

プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:不登校にかかわる児童の出現率が0.5%以下 3:不登校にかかわる児童の出現率が1.0%以下 2:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%以下 1:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%超	4:	<p>・感染症対策の徹底が図るため、生活指導部を中心に、「ソーシャルディスタンス」が児童に徹底できるように、臨時休業中に動画を制作し、周知するようにした。また、全教員が「赤松のルール」を共通理解して指導した。校舎改築で校庭も使えない環境ではあったが、児童アンケートでの「学校のルールを守っている」の評価は92.5%で、昨年度より0.5ポイント上がった。</p> <p>・道徳授業地区公開講座では、密にならないように時間帯や人数を制限しながら開催した。今年度から道徳の教科書を活用して、「考え、議論する道徳」を目指して授業展開を工夫した。</p> <p>・いじめ対策の会議を月1回実施するとともに、会議を待たずに職員夕会時等を活用して全教員に周知して共通理解を高める等、早期発見を心掛け、未然防止に努めることができた。</p> <p>・問題行動、不登校児童等に関するケース会議を実施して、解決に向けては、スクールカウンセラーにつなげたり、教育センター、子ども家庭支援センター等の外部機関とも連携をとったりしながら対応した。担任だけでなく、校内体制を確立して、養護教諭をはじめ全教員で組織的に取り組むことができた。6年生は、受験や進学を控え、不安を抱えている児童が多く、それらの解消が課題となっている。</p> <p>・本校の重要課題である「あいさつ」に関して、生活指導夕会で話題に取り上げ、毎朝、看護当番も「あいさつ」を意識して立っていた。</p>	A	4	・不登校出現率は残念な結果だが、今後の取組に期待する。 ・不登校の要因の一つのいじめ問題には、さまざまな角度から対応しているのがよくわかる。また、家庭内に大きな原因があり、その割合も大きいと聞いています。各関係機関との大いなる連携を期待します。「豊かな心の育成」の目標こそがESD教育の目指すことだと思えます。 ・学力の底上げを図るさまざまな方法を取り入れていることに頭が下がる思いです。落ちこぼれ(嫌な言葉ですが)の子どもを一人でも出さないといった強い意志を感じます。			
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%以下	3:		<p>・「あいさつ」への取組は教職員の中では前年以上に実施している評価だが、アンケートでは下がっている状況とのこと。「方法」(やり方)に問題があるのでは。違う方法を検討して下さい。例えば、保護者に対しても採点するとか。</p> <p>・あいさつに対する意識徹底を地域ともっと連携して取り組むべき。学校だけでは厳しい。</p>	B	4	・学力の底上げを図るさまざまな方法を取り入れていることに頭が下がる思いです。落ちこぼれ(嫌な言葉ですが)の子どもを一人でも出さないといった強い意志を感じます。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%超	2:			<p>・「あいさつ」への取組は教職員の中では前年以上に実施している評価だが、アンケートでは下がっている状況とのこと。「方法」(やり方)に問題があるのでは。違う方法を検討して下さい。例えば、保護者に対しても採点するとか。</p> <p>・あいさつに対する意識徹底を地域ともっと連携して取り組むべき。学校だけでは厳しい。</p>	C	1	・学力の底上げを図るさまざまな方法を取り入れていることに頭が下がる思いです。落ちこぼれ(嫌な言葉ですが)の子どもを一人でも出さないといった強い意志を感じます。	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%超	1:				<p>・「あいさつ」への取組は教職員の中では前年以上に実施している評価だが、アンケートでは下がっている状況とのこと。「方法」(やり方)に問題があるのでは。違う方法を検討して下さい。例えば、保護者に対しても採点するとか。</p> <p>・あいさつに対する意識徹底を地域ともっと連携して取り組むべき。学校だけでは厳しい。</p>	D		・学力の底上げを図るさまざまな方法を取り入れていることに頭が下がる思いです。落ちこぼれ(嫌な言葉ですが)の子どもを一人でも出さないといった強い意志を感じます。
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3	1:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%超						<p>・「あいさつ」への取組は教職員の中では前年以上に実施している評価だが、アンケートでは下がっている状況とのこと。「方法」(やり方)に問題があるのでは。違う方法を検討して下さい。例えば、保護者に対しても採点するとか。</p> <p>・あいさつに対する意識徹底を地域ともっと連携して取り組むべき。学校だけでは厳しい。</p>		
あいさつの響き合う学校にするために、組織的・継続的にあいさつの指導を行う。	4:前年度以上に実施した。 3:前年度並みに実施した。 2:前年度より縮小した。 1:継続できないものがあった。	4	1:不登校にかかわる児童の出現率が1.5%超		<p>・「あいさつ」への取組は教職員の中では前年以上に実施している評価だが、アンケートでは下がっている状況とのこと。「方法」(やり方)に問題があるのでは。違う方法を検討して下さい。例えば、保護者に対しても採点するとか。</p> <p>・あいさつに対する意識徹底を地域ともっと連携して取り組むべき。学校だけでは厳しい。</p>							・学力の底上げを図るさまざまな方法を取り入れていることに頭が下がる思いです。落ちこぼれ(嫌な言葉ですが)の子どもを一人でも出さないといった強い意志を感じます。	
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		4:「体を動かすことは楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が80%以上	4:	<p>・臨時休業後、規則正しいが学校生活が送れるように、ホームページで周知したり、1週間の「早ね・早起き・朝ごはん」のカードを家庭と連携して取り組んだりして遅刻せず、健康的な生活を送る児童の姿が見られた。</p> <p>・諸外国の料理や日本の伝統的な料理、特産品を生かした料理を提供して、食材や行事食への興味や関心を高めることができた。</p> <p>・大森第六中学校と連携し、運動会の練習や当日の運営を円滑に進めることができた。全校で取り組む唯一の学校行事となり、児童の感想からも充実した行事となった。</p> <p>・校舎改築に伴い、校庭が使用できなくなったが、屋上や体育館を計画的に使用できるようにして、運動を楽しめる環境の維持に努めた。</p>				A	7
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		3:「体を動かすことは楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が70%以上	3:		<p>・臨時休業後、規則正しいが学校生活が送れるように、ホームページで周知したり、1週間の「早ね・早起き・朝ごはん」のカードを家庭と連携して取り組んだりして遅刻せず、健康的な生活を送る児童の姿が見られた。</p> <p>・諸外国の料理や日本の伝統的な料理、特産品を生かした料理を提供して、食材や行事食への興味や関心を高めることができた。</p> <p>・大森第六中学校と連携し、運動会の練習や当日の運営を円滑に進めることができた。全校で取り組む唯一の学校行事となり、児童の感想からも充実した行事となった。</p> <p>・校舎改築に伴い、校庭が使用できなくなったが、屋上や体育館を計画的に使用できるようにして、運動を楽しめる環境の維持に努めた。</p>			B	2
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		2:「体を動かすことは楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が60%以上	2:			<p>・臨時休業後、規則正しいが学校生活が送れるように、ホームページで周知したり、1週間の「早ね・早起き・朝ごはん」のカードを家庭と連携して取り組んだりして遅刻せず、健康的な生活を送る児童の姿が見られた。</p> <p>・諸外国の料理や日本の伝統的な料理、特産品を生かした料理を提供して、食材や行事食への興味や関心を高めることができた。</p> <p>・大森第六中学校と連携し、運動会の練習や当日の運営を円滑に進めることができた。全校で取り組む唯一の学校行事となり、児童の感想からも充実した行事となった。</p> <p>・校舎改築に伴い、校庭が使用できなくなったが、屋上や体育館を計画的に使用できるようにして、運動を楽しめる環境の維持に努めた。</p>		C	
		感染症対策を考慮しつつ、限られた運動スペースを有効活用し、体育の時間や休み時間に体力の維持向上に努める。	4:全学級で行った 3:80%以上の学級で行った。 2:60%以上の学級で行った。 1:取り組んだ学級が60%未満であった。	4		1:「体を動かすことは楽しい」とアンケートで回答した子どもの割合が60%未満	1:				<p>・臨時休業後、規則正しいが学校生活が送れるように、ホームページで周知したり、1週間の「早ね・早起き・朝ごはん」のカードを家庭と連携して取り組んだりして遅刻せず、健康的な生活を送る児童の姿が見られた。</p> <p>・諸外国の料理や日本の伝統的な料理、特産品を生かした料理を提供して、食材や行事食への興味や関心を高めることができた。</p> <p>・大森第六中学校と連携し、運動会の練習や当日の運営を円滑に進めることができた。全校で取り組む唯一の学校行事となり、児童の感想からも充実した行事となった。</p> <p>・校舎改築に伴い、校庭が使用できなくなったが、屋上や体育館を計画的に使用できるようにして、運動を楽しめる環境の維持に努めた。</p>	D	
							<p>・臨時休業後、規則正しいが学校生活が送れるように、ホームページで周知したり、1週間の「早ね・早起き・朝ごはん」のカードを家庭と連携して取り組んだりして遅刻せず、健康的な生活を送る児童の姿が見られた。</p> <p>・諸外国の料理や日本の伝統的な料理、特産品を生かした料理を提供して、食材や行事食への興味や関心を高めることができた。</p> <p>・大森第六中学校と連携し、運動会の練習や当日の運営を円滑に進めることができた。全校で取り組む唯一の学校行事となり、児童の感想からも充実した行事となった。</p> <p>・校舎改築に伴い、校庭が使用できなくなったが、屋上や体育館を計画的に使用できるようにして、運動を楽しめる環境の維持に努めた。</p>						

プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:保護者による授業評価において、肯定的な評価が95%以上 3:保護者による授業評価において、肯定的な評価が90%以上	4:	「教師(担任・専科)は、学力を身に付けさせるために指導の工夫をしている」の評価が、昨年度より5.9ポイント上がり99.2%となり、高い評価となった。 ・授業公開は学年を分散して実施する計画を立てていたが、その時期に感染が拡大し、感染防止対策のため6年のみしか実施することができなかった。 ・主幹、主任教諭が中心となって、今年度から施行された新学習指導要領についてOJT研修を自主的に実施し、教科指導の向上に努めた。あわせてICT機器の研修を民間のサポートを受けながら実施し、日々の授業に生かした。 ・すすんで各種研究会に参加する教員が多く、日々の学習に生かしたり、研修してきた成果を報告したりして、指導力向上につなげていた。 ・特別支援専門員を調整役として、サポートルームと担任が連携して、お互いの指導内容を共有し、より良い指導方法を模索している。 ・新学習指導要領の全面实施1年目で、「主体的で対話的な授業」や「新しい評価の観点」を学ぶために、自主的にOJT研修を実施し、指導力向上に努めていた。また、教員室内で専門性の高い教員にすすんで助言や指導をしてもらう場面も日常化し、教員同士がお互いの専門性を生かし、学級を交換して授業をする場面も見られた。	A	7	・授業の制約がある中で、よく頑張っていると思います。 ・教員の向上心の強さと努力の姿勢に好感が持てます。また、教員相互の情報交換等の活動を通して魅力ある教育現場が作られていると思う。 ・厳しいリソースはあるからこそ、もっと地域と連携すべき。地域教育連絡協議会を儀式でなく、地域の力を借りる場として活用してほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:2:保護者による授業評価において、肯定的な評価が85%以上	3:				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3:1:保護者による授業評価において、肯定的な評価が85%未満	2:				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3:	1:				
		OJTを組織化し、各教科等の専門性の高い教員からの伝達講習や研究授業前の模擬授業などの研修を日常的・計画的に行う。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回程度行った。 2:学期に1回程度行った。 1:実施しなかった。	3:					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4:保護者による学校評価アンケート(項目4, 5, 9)の結果、満足度90%以上	4:	・学校評価「4.学校からのさまざまな通信に、知りたい情報もりこまれている」は、97.5%で昨年度より3.6ポイント上がった。本年度からホームページに「あかまつDIARY」「赤松小学校改革に伴う工事について」などを定期的に更新し、学校や児童の様子をリアルタイムで伝えることができた。「5.地域やPTAの活動に協力的である」は、98.4%で昨年度より0.8ポイント上がった。新型コロナウイルス感染防止のために、区の施策や学校行事などの変更を早急に地域やPTAへ連絡し協議して迅速に対応することができた。とくにPTAには総会の運営方法の変更や校内消毒の協力、PTA室や主事倉庫にある地域関連行事に使用する物品の移転作業など多大な支援をいただくことができた。「9.学校での体験学習や校外学習などが適切に行われている」は、94.4%で昨年度より4.4ポイント下がった。例年実施していた遠足やゲストティーチャーを招いての体験学習が感染防止の観点から中止、規模を縮小、変更して実施したためと考える。次年度は、昨年度同様に実施できるように努めたい。 ・学校支援地域本部と連携して、土曜授業の4校時にパワーアップ(算数の復習)のボランティア募集をしていただき、低学年の基礎基本の定着につながった。また、校舎改革に伴う思い出づくり「赤松ペイントプロジェクト」の企画に賛同していただき、材料の提供や活動報告をする等、充実した活動となった。 ・参観できる機会を変更しながら企画したが、感染状況が思わしくない時期と重なり、たびたび中止となった。次年度も、感染症対策を考慮して、保護者の参観できる機会を増やせるよう計画したい。	A	7	・家庭、地域と密接な活動を行うことで、子どもたちのより充実した学校生活が成り立つと思います。コロナ禍により、限定的な活動になっていますが、感染終息後を見据えた目を持っていたいと思います。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3:3:保護者による学校評価アンケート(項目4, 5, 9)の結果、満足度80%以上					3:
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:2:保護者による学校評価アンケート(項目4, 5, 9)の結果、満足度70%以上					2:
		感染症対策を考慮しつつ保護者の参観できる機会をできるだけ設け、学校教育の現状を公開する。	4:2学期以降、学期2回公開した。 3:2学期以降、学期1回公開した。 2:2学期以降、年間で1回公開した。 1:公開しなかった。	4:1:保護者による学校評価アンケート(項目4, 5, 9)の結果、満足度70%未満					1:
特色ある教育	赤松の伝統を受け継ぎ、子ども中心に前進を続ける学校を目指します。	4:前年度並みに実施した。 3:前年度より若干縮小して実施した。 2:前年度より大幅に縮小して実施した。 1:継続できないものがあった。	児童がアンケートでこれらの活動が「楽しい」と回答した割合が 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4:	「行事や金管バンドなど、みんなで創り上げることが楽しい」は、93.7%で昨年度より1ポイント下がった。金管バンドでは、朝練習をパートごとにし、広い体育館で感染症対策をして実施し、音楽朝会で全校児童に披露することができた。また、唯一全校児童が集うことができた中学校を借りての運動会に、児童は実施できた喜びを感じることができた。				

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記